



# 偉人 坪内逍遙

## 文学者 逍遙

明治18年、逍遙は近代小説の理論書である「小説神髓」しょうせつしんずいを刊行しました。この書は江戸時代からのかんぜんちょうあくしゅぎ勧善懲悪主義を捨て、人間の内部を写実的に描写して、芸術としての価値を高めたものです。

同年、「小説神髓」の実践書、「当世書生気質」とうせいしょせいかにぎを刊行しました。これは当時の学生の生きざまを写実的に描写した小説として世の賞賛を受け逍遙の文名は一挙にあがりました。こうして世間の注目を浴びた明治近代小説は誕生したのです。



「当世書生気質」執筆当時の逍遙